

燈 光

1





新年あいさつ

燈光会会長 久保 成人

新年おめでとうございます。

燈光会の大事な仕事の一つは、灯台を多くの方に知ってもらう、灯台に関わる事業の応援団を増やしていくことかと思えます。そのためにたくさんの方に灯台に来ていただき、体験し、楽しんでもらうことが重要です。昨年度（令和6年度）は70万人の方に参観していただきました。今年度も70万人ペースで順調に推移しています。

昨年の11月には、灯台をより深く理解していただく出来事がありました。観音埼灯台とフランス・ミリエ灯台による「姉妹灯台」連携です。11月15日に横須賀市のヴェルニー公園小栗広場で、フランス側はベアトリス・ル・フラペール・デュ・エレン次期駐日大使とミリエ灯台関係者が出席され、日本側も瀬口海上保安

庁長官、土地横須賀市長とともに燈光会会長として私も出席し、両者協力覚書に署名いたしました。今後、展示物の相互展示や関係者の相互訪問等の分野で協力していくことになります。

ヴェルニーはご承知のとおり日本の近代化に貢献したフランス人技師であり、日本最古の洋式灯台である観音埼灯台の設計者です。また、小栗（忠順）はその日本近代化の提唱者であり、フランスに協力支援を要請した江戸幕府の幕臣です。二人の名を冠する場所で覚書が結ばれたことに、極めて深い意義を感じております。

このように、灯台は日本の近代化という大きな流れの中に位置付けられる存在であり、その歴史的価値は極めて大きなものです。重要文化財の灯台等は18に増

えていますし、そのうち「のぼれる灯台」も5つになつています。

尻屋埼灯台、犬吠埼灯台、御前埼灯台、出雲日御碕灯台、角島灯台です。これら灯台をはじめ、のぼれる灯台の歴史的、文化的価値に光を当て、周辺の見どころを含めてより多くの方々に灯台に来ていただきたいと思っています。

ただ、灯台に来ていただくには燈光会の力だけでは難しい面もありますので、地域の地方公共団体や観光協会といった皆様との連携が不可欠で、その観点から灯台ワールドサミットが今後ますます大事になっていくと思います。のぼれる灯台がある東通村、銚子市、男鹿市、御前崎市、志摩市、出雲市の6市村長さんの集まりですが、他ののぼれる灯台がある自治体の首長さんにも加わっていただくと強い力になっていくと期待できます。岩崎前会長も自治体訪問の際に参加のお願いをされていますが、私も灯台ワールドサミットのメンバーになっていただけるよう積極的に働きかけてまいりたいと考えています。

インバウンドの人にも、ぜひ灯台にのぼってもらえ

ればと思います。昨年は4000万人の外国人が日本を訪れました。日本政府の将来目標は6000万人ですが、インバウンドについては幾つかの問題があり、その一つが東京、大阪、京都に集中しそれ以外の地域、地方への訪問が相対的に少ないことです。灯台はその周辺の自然風景や文化財などと併せて地域の有望な観光資源になり得ます。本物の魅力として磨き上げ、発信強化のために関係の人々が力と心を合わせれば、インバウンドの地方分散にもつながるのではないかと思います。

少し期待や想いを述べすぎたかもしれませんが、私はまだのぼれる灯台を二、三箇所しか訪れていませんが、現場スタッフの皆さんの頑張りを実感しました。事務局も少数精鋭で頑張っています。のぼれる灯台を始め、灯台を訪れる人が大いに増え、灯台を理解してもらい、また地域の活性化にもつながっていくよう会員、読者の皆さんの変わらぬ応援をよろしく願います。

最後になりましたが、午（うま）年の本年が、皆々様の飛躍の年となることを心より祈念いたします。



年頭のご挨拶

海上保安庁交通部長 石塚 智 之

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

平素からの海上保安業務に対するご支援・ご協力に
対しまして、心よりお礼申し上げます。

また、(公社)燈光会におかれましては、灯台参観事業をはじめ、航路標識に関する理解促進にご尽力いただきとともに、海上交通の安全意識の向上にも貢献いただいておりますこと、重ねて感謝申し上げます。

昨年を振り返りますと、4月には大阪湾に面する夢洲において「2025年大阪・関西万博」が開催され、累計2,900万人を超える来場者を記録し、同年10月に惜しまれながらも無事、閉会致しました。海上保安庁としましては、184日という長期にわたる開催期間中、巡視船艇・航空機を駆使し、24時間体制でテロ対策や要人警護、災害発生時の対応等に取組むとともに、このような状況下においても、大阪湾を往来す

る船舶の運航を維持すべく、安全確保に努めてまいりました。

また、夏季のマリンレジャーシーズンにおいては、
昨今、訪日外国人旅行者の増加に伴い、外国人によるマリンレジャー中の事故が増加していることから、ウォーターセーフティガイドを基に、多言語化したリーフレットを作成し、SNS配信をはじめ、外国人旅行者が訪れる場所で配布するなどして効果的な安全啓発を図ったところです。

このほか、本年10月には、文化審議会からの答申により、水ノ子島灯台(大分県佐伯市)及び男木島灯台(香川県高松市)が重要文化財に指定されることとなりました。これにより、明治期に建造された現役灯台の重要文化財指定は18基となります。灯台は、船舶の安全な航行に必要な不可欠な「海のみちしるべ」として長く活躍しておりますが、近年においては歴史的、

文化的価値を有するものとして注目されるとともに、観光資源としても親しまれるなど、新たな価値や役割を生み出しております。

これら灯台の維持管理及び啓発等にご尽力いただいているのが、(公社)燈光会をはじめとした「航路標識協力団体」の方々となります。航路標識法に基づく航路標識協力団体制度を令和3年度に創設してから5年目という節目を迎えるにあたり、(公社)燈光会皆様からの多大なるご支援のもと、本制度の活性化を目的とした「航路標識協力団体の活性化に向けた連絡会議」を10月に開催させていただきました。本会を通じ、航路標識協力団体の皆様には、多大なるご協力を賜っておりますことを改めて実感いたしました。日頃のご活躍に心より感謝申し上げます。海上保安庁としましては、今後も各団体との各種連携を密にし、航路標識協力団体制度の適切な運用に努めてまいります。

このほか、令和6年11月に世界初の取組として、千葉県にある犬吠埼灯台とスコットランドのマル・オブ・ギャロウェイ灯台との姉妹灯台提携が行われました。そして、昨年11月には同取組の2例目として、神奈川県にある観音埼灯台とフランスのミリエ灯台との姉妹灯台締結に関する協力覚書の署名式を執り行いました。今後、両灯台に関連する地域の観光振興や国際

交流の促進が期待されます。

このように多岐にわたる業務に取組む一方で、昨今の若年人口の減少、社会的価値観や情勢等の変化による影響もあり、当庁も例外なく、人材確保の課題に直面しています。この課題に対し、かつて海上保安官であった者の採用「カムバック採用」、主に事務作業を担当する任期付き職員や民間企業などで航路標識の建設、機器・無線設備に関する技術者として経験を積まれた方の採用など、あらゆる方面からの職員募集に力を入れていくところです。

加えて、現役職員の離職防止を図るためにも、勤務環境や処遇の改善、ライフワークバランス・女性活躍の推進やデジタル化推進や新技術の導入などによる「業務の効率化・高度化」、社会情勢等に適応した業務遂行体制の構築のための「今後の海上保安業務のあるべき姿の検討」に取り組んでおりますところ、今後とも海上保安業務へのご理解とご協力のほど、お願い申し上げます。

結びに、我が国の航路標識事業の発展に貢献してこられた皆様のご努力に対して、心より敬意を表するとともに、今後の一層のご活躍を祈念いたしまして、私の年頭のご挨拶とさせていただきます。

令和7年 交通部の主な取組

海上保安庁交通部企画課

1 航路標識協力団体活性化に向けた

連絡会議の初開催

海上保安庁では、令和7年10月20日、東京都霞ヶ関の霞山会館にて『航路標識協力団体活性化に向けた連絡会議（以下「連絡会議」という。）を開催しました。本連絡会議は、「航路標識協力団体制度」の創設から5年目という節目の年に、全国の灯台で活動を実施する航路標識協力団体（以下「協力団体」という。）の皆様が一堂に会し、活動の発表や情報共有を行う機会を創出し、制度の更なる活性化を目的とした会議です。令和



7年12月2日時点で指定されている57の協力団体のうち、26の団体（対面…8団体、Web…18団体）が会議に出席した他、協力団体審査委員を務めていただいている東京海洋大学の田丸人意教授、日本財団の海と灯台プロジェクト事務局、燈の守り人製作委員会、オプザバーとして（二財）日本航路標識協会、灯台フォーラムの方々に御参加いただきました。

会議では、4の協力団体から、普段の活動や灯台活動に係る取組について御発表いただきました。公益社団法人燈光会（令和3年度指定）渡辺総務部長から組織沿革や協力団体制度との関わりについて、鰺崎灯台サポーター（令和3年度指定）の石島代表から計8年間実施している灯台周辺の草刈りを主とした環境整備活動について、一般社団法人美浜まちラボプロジェクト（令和3年度指定）リーダーの林氏からウエディングフォト撮影や現代版灯台守の起用などの個性的な活動について、大島プロジェクト会議（令和3年度指定）の若松会長から灯台が位置する大島への関心を創出することを目的とした各活動について、御発表いただきました。各協力団体の状況や灯台の立地条件等の制約がある中で実施している多様な活動についての御発表と意見交換を実施いただき、今後益々の航路標識協力

団体活動の活性化が期待されます。

また、連絡会議後のアンケートでは、「各発表内容」、「参加者同士の交流」等が良い点として評価いただき、今後も年1回以上の開催を要望する回答を多くいただきました。一方で、協力団体の運用面では魅力発信や継続した活動の実施、次回会議への提案ではWeb参加の一体感を高めるなどのご意見もいただきましたので、次回もさらに充実した場となるよう努めてまいります。

2 仏姉妹灯台の誕生／観音埼灯台とミリエ灯台による「姉妹灯台」提携

海上保安庁は、令和7年11月15日、観音埼灯台とミリエ灯台（フランス）の姉妹灯台提携に関する協力覚書に署名しました。

本提携は、令和6年に実施した犬吠埼灯台とマル・オブ・ギャロウェイ灯台（スコットランド）の姉妹灯台提携に続き、世界で2例目になります。

署名した協力覚書には、両灯台と関連する地域同士の歴史的及び文化的なつながりを促進するために、両灯台の歴史に関する写真やビデオなどの相互展示、人的交流と情報交換を目的とした相互の灯台の訪問等を

実施する内容が記載されています。

また、本署名式において 武石 堯 氏のミリエ灯台の油絵をフランス政府へ贈呈しており、今後、「日仏姉妹灯台」として展示物の相互展示や関係者の相互訪問等の分野で協力していきます。

※武石 堯（たけいし とおる）

武石 堯（1937―）氏は、茨城県大洗町出身の画家で高校教師を定年退職した後、日本の全国各地の灯台を巡って灯台や寺院・仏像などを題材にした作品を多く制作しています。日本の灯台を一通り描き終えた後、イギリス、フランス、アイルランドにも足を延ばして海外の灯台も多数描かれました。同氏は、201



署名式の様子（代表者署名披露）



署名式の様子（武石氏のミリエ灯台油絵贈呈）

4年の犬吠埼灯台140周年記念式典にて講演を実施しています。

両灯台は共にフランス人技師によって設計された灯台で、灯台の形が初代観音埼灯台と同じ家（メゾン）型の灯台になり、共にフレネルレンズを使用しています。

(1) 観音埼灯台

日本最初の洋式灯台としてフランス人技師フランソワ・レオンス・ヴェルニー及びフロラン兄弟によって



観音埼灯台（初代／三代目）



ミリエ灯台

建設されたもので、明治元年（1868年）11月1日に起工、翌年の明治2年1月1日に初点灯しました。初代灯台は横須賀製鉄所で作られたレンガを使用した洋館建ての灯台でしたが、大正時代の地震により2度再建され、現在の灯台は3代目のコンクリート造灯台になります。

(2) ミリエ灯台

ブゼック＝カッブ＝シザン市にあるミリエ岬に位置し、フランス人技師アレク・ドゥ・ラ・ノエによって設計され、1881年3月に初点灯しました。観音埼灯台の建設に携わったフランス人技師フロラン兄弟の地元（ブルターニュ州フィニステール県）に位置しています。

3 国際航路標識機関（IALA）第1回総会への出席

令和7年2月18日から21日までの間、シンガポールにおいて国際航路標識機関（IALA）の第1回総会が開催されました。18日には我が国を代表して寺田国土交通審議官が演説を行ったほか、20日に実施された理事国選挙では日本が当選を果たしました。



演説を行う寺田国土交通審議官（左）



総会の様子



理事国選挙において投票する
海上保安庁石塚交通部長

今総会は国際航路標識協会が国際機関化されてから初となる総会で、各国の閣僚からの祝辞に続いて、理事国等の選挙、一般規則案の採択等が行われました。また、総会期間中に開催された理事国において技術委員会の議長等の選出が行われま

した。

総会初日の18日には、寺田吉道国土交通審議官が我が国を代表して演説し、国際的な航路標識の分野における国際基準の策定や現代技術の革新、人材育成の取り組みなど、これまでの日本のリーダーシップによるIALAへの貢献を広くアピールするとともに、これらの取り組みを引き続き主導していく旨を表明しました。

20日に実施された理事国選挙の結果、日本を含めた25か国が当選を果たし、2027年まで理事国を務めることとなりました。

日本、アルバニア、オーストラリア、ベルギー、カナダ、チリ、中国、クロアチア、デンマーク、フィンランド、フランス、ドイツ、アイルランド、マレーシア、ノルウェー、韓国、ルーマニア、シंगाポール、スペイン、スウェーデン、オランダ、トルコ、英国、ブラジル（議長国）、インド（副議長国）

今回の総会を踏まえて、海上保安庁は理事国として、今後も航路標識分野における国際的なルール作り等に

において主導的な役割を果たすことで、船舶交通の安全に努めるとともに、加盟国等と協調してその活動に積極的に貢献していきます。

なお、今回の総会は、2027年にインドで開催予定です。

― 国際航路標識機関（IALA）とは ―

灯台等の航路標識に関する世界的な取組を通じ、安全かつ能率的な船舶の移動等を促進させるため、昭和32年、フランス国内法上の非営利団体として設立された国際航路標識協会を前身とする国際機関。令和6年8月に国際機関化に関する条約が発効し、国際機関となった。

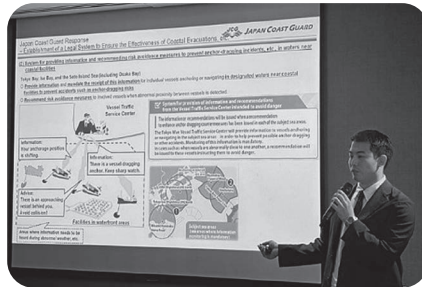
4 管制課程 1期生国際フィールドへの挑戦

シンガポールでJICA第三国研修を実施してきました！

令和7年8月10日から16日までの7日間、本庁交通部の有田専門官、佐藤官（管制課程1期生）はシンガポールに赴き、JICA第三国研修JSP21で講義を実施しました。今年度は20カ国30名の海事局、港湾管理者など様々な職種の研修員が参加しました。



管制課程 7期生と8期生たち
（於：大阪湾海上交通センター）



JSP21での講義の様子



海の管制官
ポータルサイト

さて、この第三国研修とは、海上保安庁とシンガポール海事港湾庁（MPA）が連携し、ASEAN諸国及び周辺国の海上交通機関等の職員に対し、航路標識及び航行安全に関する技術移転のための講義を実施するものです。

今回は、日本における海上交通センターの仕組みや管制官についての研修で、佐藤官が得意とする英語により、『日本の海上交通法規、海上交通センターの業務、台風等の異常気象時の対応』について約90分間の講義を行いました。講義では海上交通センター勤務で培った管制官の知識や経験に基づいた内容を伝えるとともに、研修生との活発な意見交換や質疑応答を行いました。

このように、海の管制官を目指す方はもちろんのこと、国際的な舞台へチャレンジしたい方も、ぜひ海上保安学校管制課程への入学を希望してください！

5 「ウォーターセーフティガイド」リーフレットの多言語化

海上保安庁では船や人の事故減少を目指し、様々な安全対策を講じており、特に力を入れているものの一つに「ウォーターセーフティガイド」があります。ウォーターセーフティガイドとは、モーターボート、水上オートバイ、遊泳、スノーケリング、カヌー、SUP、ミニボート、釣りの8つのマリンレジャーについて、事故防止のための情報をまとめた総合安全情報サイトで2018年4月から運用しています。また、ウ

ォーターセーフティガイドは海上保安庁単独で作成して掲載するのではなく、各マリンレジャーの安全推進に関わる行政機関に加え、民間団体や事業者など幅広い関係者による意見交換を行い、合意された内容を掲載しています。

現在、ウォーターセーフティガイドに掲載されている各レジャーの日本人の事故数についてはおおむね減少傾向である一方、2023年～2024年にかけて外国人の事故数は増加しています。また、日本政府観光局の発表によると訪日外国人旅行者数は2507万人から3687万人に増加しており、今後も更に増加する見込みです。

このような状況から訪日外国人旅行者に対する事故防止対策が急務であると考え、駐日各国大使館の協力を得て、ウォーターセーフティガイドの内容を簡潔にまとめた外国人向けのウォーターセーフティガイド外国語リーフレットを計12言語分（英・韓・中・露等）作成しました（写真1）。

作成したリーフレットは、観光事業者やマリンレジャー事業者など外国人と接する方が手軽に利用できるよう、ウォーターセーフティガイドに掲載（写真2）しています。



写真3 リーフレット配布

また、沖縄の玄関口のの一つとして多くの外国人が訪れる「那覇港クルーズターミナル」や離島を



写真2 リーフレットの掲載ページQR

Water Safety Guide	
<ul style="list-style-type: none"> ✓ Check your physical health before engaging in activities. ✓ Confirm weather and sea conditions in advance. ✓ Always wear a life jacket. 	
Motorboat 3 key points to prevent accidents ① Conduct a pre-departure inspection. ② Perform regular maintenance and have inspections conducted by qualified technicians. ③ Observe maritime traffic regulations.	Personal watercraft 3 key points to prevent accidents ① Operate at the slowest speed near swimmers and others. ② Review self-recovery methods from capsize and safety instructions. ③ Avoid dangerous actions like tossing passengers or swinging tow toys.
Swimming 3 key points to prevent accidents ① Swim at supervised beaches with lifeguards. ② Guardians should stay close to children at all times. ③ Do not swim after drinking alcohol.	Snorkeling 3 key points to prevent accidents ① Learn fin-kicking, snorkel-clearing, and mask-clearing. ② Never snorkel alone — always go with others. ③ Do not snorkel after drinking alcohol.
Canoeing 3 key points to prevent accidents ① Learn basic skills such as capsize recovery before going to sea. ② Inspect your canoe before departure. ③ Beginners should take a training course for basic skills and knowledge.	SUP Stand-up paddleboards 3 key points to prevent accidents ① Beginners should stay in conditions under 5 m/s wind and 50 cm waves. ② Ensure necessary equipment and skills. ③ Beginners should take a training course for basic skills and knowledge.
Mini-boats 3 key points to prevent accidents ① Pay attention to the balance of your boat. ② Launch only in low waves (50 cm) and light wind (54 m/s). ③ Take into account your boat's performance and possible mechanical failure. Stay within a distance you can row back (5 km from shore).	Fishing 3 key points to prevent accidents ① Choose equipment suitable for the fishing environment. ② Avoid fishing alone — always go with others. ③ Do not enter restricted areas.

写真1 ウォーターセーフティガイドリーフレット

結ぶ「泊ふ頭旅客ターミナルビル」において、訪日外国人旅行者に対する外国語リーフレットの配布（写真3）、NHK等のメディアを通じた安全啓発を行いました。特にターミナルでの安全啓発では、様々な国籍の方が母国語で記載されたリーフレットに関心を示し、当初の予想よりも多くメッセージを届けることができました。また、翻訳協力いただいた大使館からもSNSにてリーフレットの情報発信を実施していただきました。

海上保安庁では引き続き、ウォーターセーフティガイドを充実強化、普及することでマリネジャーの事故防止を推進して参ります。

6 求む！海保で活躍する「海の技術官」

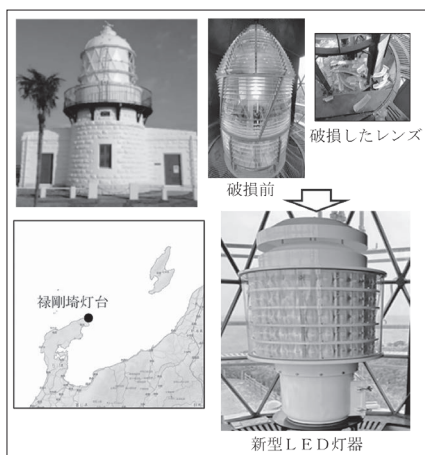
～技術系職員の採用募集～

海上保安庁では、灯台や灯浮標（ブイ）などの「海の道しるべ」を守り、未来へつないでいく「海の技術官」を募集しています。本誌を借りて、私たち技術官（本庁・管区交通部整備課職員）の仕事の一端をご紹介します。

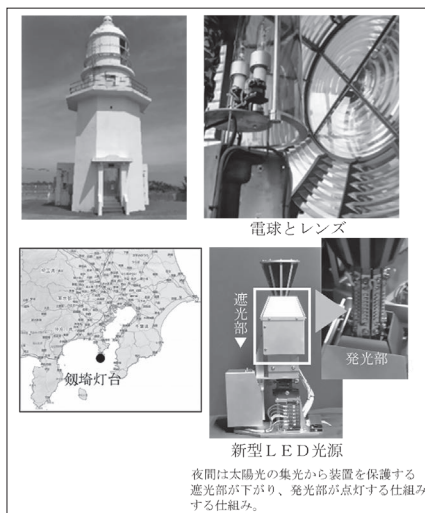
技術官は、灯台の建設や改修などの建設工事、用地や巡回路整備などの土木工事、灯器等の機器更新を行

う電気設備工事、灯浮標（ブイ）の設置、交換整備などの海洋土木工事、海上交通センターをはじめとする通信・電気機器の整備など、海の安全を支える幅広い分野の業務を担当します。工事の竣工や整備した灯器が灯ったときは大きな達成感があります。

災害への対応も重要な業務のひとつです。令和6年1月に発生した能登半島沖地震では、被災地域にある航路標識も被害を受けました。石川県珠洲市の緑剛埼灯台では、灯台レンズ（第二等不動フネルレンズ）が破損し、灯火を点灯させることができない状態となっていました。高輝度のLED素子を用いた新型灯



写真—I



写真—II

器を開発して実装し、復旧しています。【写真—I】

また、灯台が持つ歴史的・文化的価値を未来に引き継ぐための保全管理にも果敢に取組んでいます。例えば、今では作ることができない大型の灯台レンズ（第二等閃光レンズ・1925年製）を使用する神奈川県三浦市の剣埼灯台では、光源にこれまで「メタルハライドランプ」と呼ばれる強い光を発することができた電球を使用してきましたが生産が終了しました。電球の在庫が枯渇した時点で灯台レンズも撤去せざるを得ない状況となりましたが、これを回避するために電球の代替えとなる高輝度の新型LED光源を開発して既

存の灯台レンズと組み合わせることにより、歴史と最新技術が融合した新たな私たちの灯火を灯しています。

【写真—II】

皆さまが愛する灯台がこれからも海を照らし、航行する船を導き続けるよう、技術官はその「要」であり、自

分の仕事が確かな形として残る、誇りある職業です。

「海が好き」「灯台が好き」「社会の役に立つ仕事がしたい」——そんな思いを持つ方にぴったりの職種です。専門分野を学んだ方はもちろん、実務経験を活かして新しい挑戦をしたい方も歓迎します。

あなたも、灯台の未来と一緒に支えてみませんか。

詳しい募集案内は、海上保安庁ホームページにてご確認ください。
【写真Ⅲ】

求む！ 海保で活躍する「海の技術官」

海上保安庁 採用 検索

海上保安庁では、船の安全運航に必要な航路標識（灯台など）や、海上交通センターの各種機器の設計、調達、工事発注、監督などを行う技術官がいます！！
あなたの技術を活かして私たちと一緒に海の安全を守りましょう！！

このような部門があります！

- ①土木・建築
- ②電気
- ③無線従事者

詳しくは海上保安庁のホームページをご覧ください

募集要項HP

JCG 海上保安庁 交通部

土木・建築部門

【土木・建築部門とは？】
灯台や灯浮標などの航路標識の建設、改修、修繕に関する工事設計、積算、工事監督などを行い、海上交通インフラを整備する部門です。

このように分野で土木建築部門が活躍します！

灯台等の設計や建設、海上インフラ整備を行う土木建築部門！みんな夢に託してやり任せ！

灯台・灯浮標などの航路標識の設計・建設
船舶港湾の改修工事
堤防河川工事
海上工事

【主な業務の一例】

企画・立案・設計等
工事監督
工事発注費との打合せ
監督・検査
調達・研究

電気部門

【電気部門とは？】
灯台や灯浮標などの航路標識機器の設計、調達、工事発注、監督などを行い、主に船舶が安全に航行するための海の通しるべとなる「光波標識」を整備する部門です。

このように機器の調達や設計をします

強い電の中で輝く光の灯台のなかで！電気部門の専門技術官を使って船舶の安全を守り任せ！

光源 車載LEDの主流です！
電源設備 事故が起きないための大事者です！

光線 車載LEDの主流です！
電源設備 事故が起きないための大事者です！

【主な業務の一例】

企画・立案・設計等
調達機器の検査
工事発注費との打合せ
監督・検査
新設機器の調達

無線従事者部門

【無線従事者部門とは？】
沿岸部などに設置している無線設備機器・システムの設計、調達、工事発注、監督などを行い、主に船舶が安全に航行するための情報を提供する「電波標識」を整備する部門です。

海の安全を守るための無線設備・システムを整備します！

無線設備の設計に必要な情報を提供することも大切な役割！無線の技術で海の安全を守り任せ！

無線設備の設計に必要な情報を提供することも大切な役割！無線の技術で海の安全を守り任せ！

海上交通センターの無線設備
レーダー

【主な業務の一例】

企画・立案・設計等
調達機器の検査
工事発注費との打合せ
監督・検査
新設機器の調達

写真Ⅲ（技術官募集）

九管区最後のフレネルレンズと水銀槽の撤去

〜生地鼻灯台LED化改修工事〜

伏木海上保安部

星野

宏和



仮灯台が設置された
生地鼻灯台

富山県黒部市の生地鼻灯台は、昭和26（1951）年6月に設置され、富山湾を照らし続け今年で75年になります。白銀の立山連峰を背にして、白黒に塗られて立つ灯高30メートルの灯塔は壮観な眺めです。この灯台に設置以来稼働していたフレネルレンズ（四等閃光型）と水銀槽が、LED化改修工事のため、昨年11月に撤去されました。一昨年の能登半島地震で、九管区最古の緑剛埼灯台のフレネルレンズが破損し、LED化された以降、震災対応措置として九管区のフレネルレンズの各灯台も次々と光源がLED化され、最後

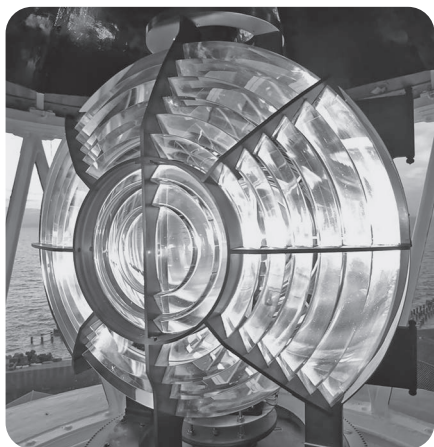
に残ったのが生地鼻灯台でした。

九管区最後となったフレネルレンズと水銀槽が分解され、高さ30メートルの灯台から撤去される工事に立ち会い、工事期間中の仮灯台の設置状況も含め、あまりお目にかかることのない珍しい光景を、燈光会員の皆様へご披露させていただきました。

地上に卸されたフレネルレンズは、後日に元の状態に組み立てられ、現在は灯台の付属舎にて、地域の資料館等への嫁入りを待っています。

昨年的一般公開では、設置以来の歴史あるレンズを惜しむ地元の声も聞かれましたが、既に最新の技術を駆使したLEDの光に生まれ変わり、生地鼻灯台は今後も変わらず富山湾の航行船舶の安全に大きく寄与していくものと期待しています。

九管区（新潟県・富山県・石川県）に於いては、これをもって職員がレンズを保守すること也不再になりました。かつては灯台のご神体でもあった磨き上げられ



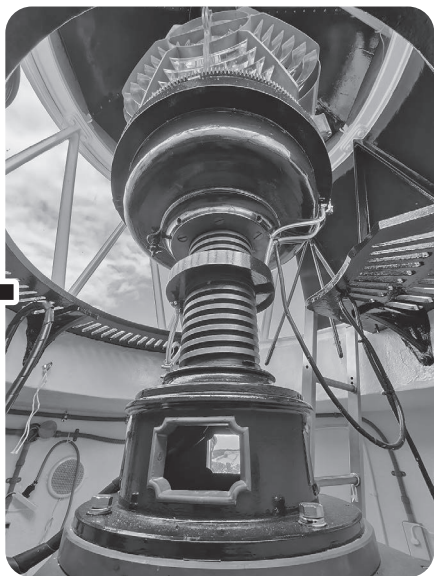
富山湾を照らし続けた四等閃光レンズ



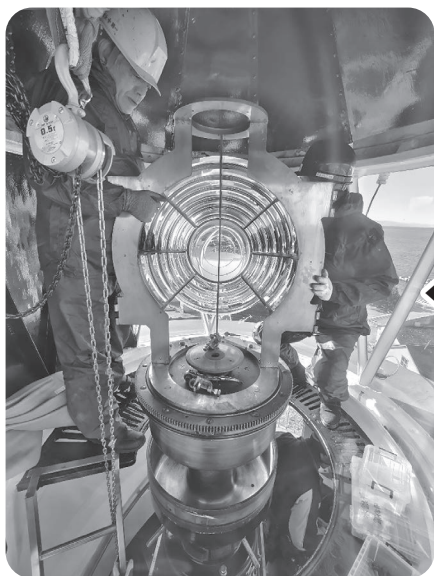
回廊に設置された仮灯台



水銀槽を降下させ水銀を完全回収



撤去前のレンズと水銀槽



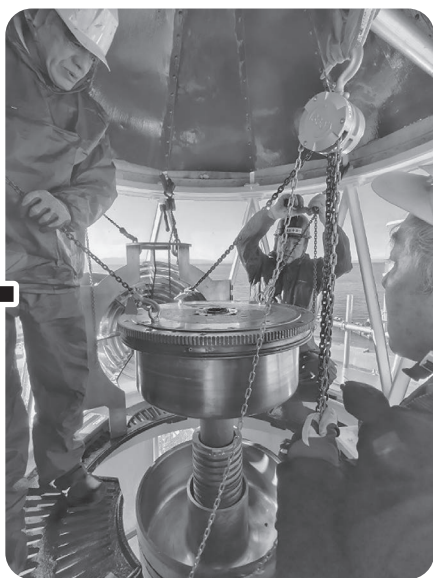
フレネルレンズを分解、一時撤去



水銀回収後、レンズ内部の灯器を撤去



水銀槽の撤去



レンズ台の撤去



回廊に集められた撤去品



フレネルレンズの撤去



地上に卸されたレンズほか撤去品

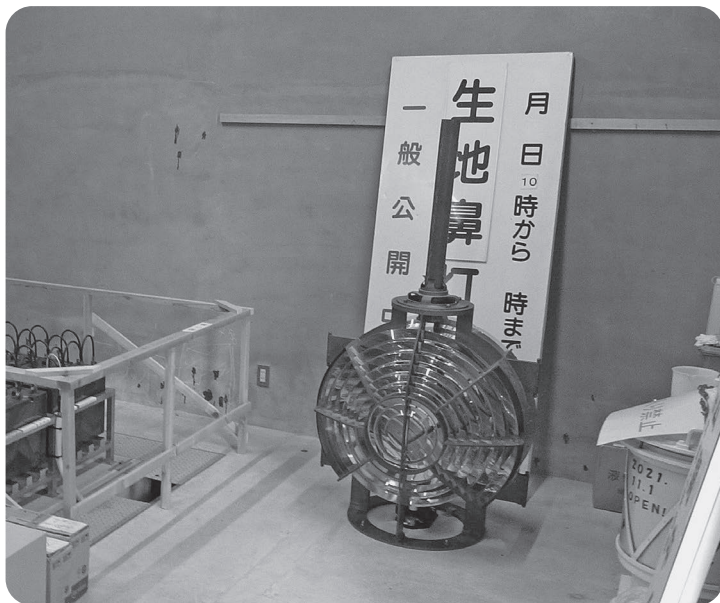


フレネルレンズの吊り卸し

たレンズは、^{かき}瑕瑾簿と称した記録簿にて些細なキズも見落とさず、歴代の燈台長に引き継がれ、手厚い保護のもと運用されてきました。本官が入庁した昭和の晩年には、もう瑕瑾簿は無くなっていましたが、ほとんどの灯台にレンズは健在でした。当時、年末になるとマスコミが灯台の年末点検の取材に訪れ、必ずレンズを磨かされる撮影が行われていました。「灯台の点検」「レンズ磨き」という型にはめられた昔ながらのイメージが嫌で、レンズ磨きの撮影から逃げ回っていたことが懐かしく思い出されます。今後は、大型の灯台や文化財に指定された一部の灯台のレンズは残されていくようですが、もう私たちが「レンズ磨き」とイメージされるようなこともなくなっていくのでしょうか。そんな中、初任の若い職員が、灯器の昼夜検出センサーを「日光弁」と呼んでいる様子を見て、なぜか嬉しく思う今日この頃です。



点灯回転する生地鼻灯台のフレネルレンズ（昨年8月撮影）



付属舎に保管中のレンズ（令和7年12月末撮影）

今回の写真撮影と掲載に対し、多大なるご理解とご協力を頂いたベルウッド電気株式会社の中島真一様に對しまして、改めてこの場を借りて深謝いたします。

空山A I S陸上局及び舞鶴浮標置場校外実習

海上保安学校 航行援助教官室

令和7年10月6日(月)、海上保安学校情報システム課程第33期生17名(2年生)及び管制課程第7期生8名(2年生)は、第八管区海上保安本部整備課及び舞鶴海上保安部交通課の協力を得て、京都府舞鶴市に所在する「舞鶴浮標置場」及び「空山A I S陸上局」において実習を行いました。

舞鶴浮標置場では灯浮標の保守整備のほか灯浮標を点検する際の注意事項等について、空山A I S陸上局では無線設備の保守管理、無線検査に使用する測定器の取扱い



標体見学



接環の分解等



無線測定器の操作



電源設備見学

等について学習しました。
学生たちは、それぞれの施設で実際に見て触れて説明を受けたことにより、船舶交通を支えている施設がどのように維持管理されているのか理解が深まったことと思います。

今回の実習にあたり、業務多忙中にもかかわらず第八管区海上保安本部交通部整備課及び舞鶴海上保安部交通課の皆様にご協力をお願いしましたことを感謝申し上げます、学生達の感想を紹介させていただきます。

【実習参加学生の感想】

情報システム課程第33期 井上 淳一郎 学生



今回の空山A I S陸上局及び舞鶴浮標置場での実習を通して、海上保安学校の授業で教わったそれぞれの施設についての理解が深まり、また、管区海上保安本部及び海上保安部交

通課の業務の一端を知ることができました。

空山A I S陸上局では、無線機器や電源設備の役割のほか無線検査などで使用する測定器の取扱いについて教えていただきました。無線検査での測定器の取扱いについては測定器と陸上局装置との間に減衰器を挿入する必要があり、挿入を怠ると機器が故障してしまうことを知り、また、無線機器の操作を正確に行うための操作マニュアルが作成されており、マニュアル作成の大切さを肌で感じることができました。

舞鶴浮標置場では、灯浮標の標体やLED灯器、接環、転環、鉄鎖等といった灯浮標を構成する各部品について教えていただいたとともに、接環の分解や組立てを実際に体験させていただきました。接環は簡単に外れないよう2重ロック式になっており、鉄鎖については想像していたよりも太く、自分の目で見たことに

より理解が深まりました。

また、灯浮標の点検は危険を伴う作業であり、2人以上で作業を実施するなど危険予知をしっかりと覚えて業務をされていることを知りました。

今回の実習で学んだ知識を交通課に配属された際に活かせるようこれからも努力していきます。

情報システム課程第33期 佐々木 晴世 学生



今回の実習では、陸上に設置されている空山A I S陸上局及び舞鶴浮標置場について見学させていただきました。

空山A I S陸上局では、設置されている機器やアンテナ等を見学し、実際にA I S S運用するためにどのように保守管理がなされ、また、無線検査の際にどのように対応されているのかを学習することができたのですが、A I S機器等の操作は私が想像していた以上にはるかに複雑であり自身の理解の浅さを痛感しました。陸上勤務を意識した実習の経験が乏しかったところもあり、今回、具体的に機器や測定器の操作の見学ができ大変勉強になりました。また、施設は山頂に設置されていたものの施設周辺はしっかりと

りと整備されており、普段、学校で行っている校庭整備も現場でも重要な業務であると感じました。施設一つでも、交通課が取扱う機器と他課が取り扱う機器が設置されており、おぼろげだった業務イメージがはっきりと輪郭を得たように思います。

通信機器の保守点検について主に学んだ空山とは打って変わって舞鶴浮標置場では灯浮標の整備に関することを学びました。実際にみた灯浮標はとても大きく、この一つ一つが海上を航行する船舶の道しるべとなっており、自身が保守管理する施設であることを考えると身の引き締まる思いです。

実習を通して、陸上勤務では様々な業務にかかわる機会があることが分かり、改めて航行援助分野の業務の幅広さを感じたところです。日々知識の習得に努めていきます。



情報システム課程第33期 中村 友梨香 学生

今回の実習は、空山AIS陸上局及び舞鶴浮標置場において、陸上での業務を実際にみたり、体験したりして実践的に学ぶことができました。

空山AIS陸上局では、無線検査を実際の無線機器を用いて舞鶴海上保安部職員の方が説明してくださり、機器の取扱いや無線検査の流れのイメージが理解できました。無線検査は将来私たちが必ず担当する業務であるため、機器の名称や取扱い方法は、今のうちから理解を深めていきたいと思います。

舞鶴浮標置場では、まず、乗船実習で船舶からみた灯浮標と比べて陸上保管されていた実際の灯浮標は意外にも大きく驚きました。また、灯浮標は常に波風にさらされているため、巨大な灯浮標を支える接環、鉄鎖などの損耗も激しく、定期的な部品の交換作業や点検作業が必要不可欠であることを学び、地道なこの整備作業が今日の船舶の安全な航行を支えているのだと思うと、整備課による航路標識の保守整備の重要性を再認識しました。一方で、海上という不安定な環境での点検となるため船舶から灯浮標に移乗し作業を実施しなければならぬと思うと少し不安な気持ちになりました。

交通課の業務について多くの学びを得ることができた今回の実習での経験を糧に、残り半年となった現場赴任に向けた学習に活かしていきたいと思います。

〓管制課程第7期

大平 梓乃 学生〓



りました。

座学では理解することができなかった空山A I S陸上局の役割や灯浮標の仕組みを実際に見たり触ったりして経験することにより知識を深めることができました。

空山A I S陸上局については実習に取り組むまでは、A I Sの大まかな役割に関する知識しかありませんでしたが、設置されていたアンテナの役割や設備の保守方法など、たくさんさんの知識を得ることができました。

舞鶴浮標置場では、実際の灯浮標の大きさ、海上に浮くための構造や灯火の機器の構造、接続具である鉄鎖の概要など実際に現物を見ながら実習に取り組むことができた理解が深まりました。

この実習の中で一番驚いたことは、「灯浮標にも船舶と同じ海洋生物が付着しないよう特殊な塗料を塗っている」こと理由です。なぜ、灯浮標に海洋生物が

今回の空山A I S陸上局及び舞鶴浮標置場の実習は、学校で学習した知識と実際の施設や灯浮標の役割を結びつけるものであるとともに、様々な業務を知れる貴重な機会とな

付着しない工夫を施す必要があるのか疑問であったのですが、「海洋生物の重さで灯浮標が沈まないように塗装する」と教えていただき、海に関係する仕事はたくさんさんの知恵と知識が反映されていると感じました。現場で情報提供を行う上で必要な知識や注意すべき点を学習することができました。残り半年しかありませんが航行船舶が必要とする情報を提供できるよう知識を得ていきます。

〓管制課程第7期

中富 帆香 学生〓



今回の実習で実際に空山A I S陸上局及び舞鶴浮標置場を見学して、灯浮標やA I Sがどれほど船舶交通の安全に必要なものであるか身をもって実感することができました。

また、航行する船舶にとって欠かすことができない目印となっている灯浮標を保守点検して下さっている方々に改めて感謝の気持ちを抱くことができました。

管制業務において情報提供を行うにあたり、正確で迅速な情報を伝えることの重要性を強く感じました。もし灯浮標が消灯したり、A I Sの情報が正しく送信されなかったりすれば、船舶が進むべき方向を見失い、

事故に繋がる恐れがあることも理解できました。また、灯浮標の保守点検やA I S陸上局の保守管理は、海上交通の安全を支えるための非常に重要な業務であることを学ぶことができました。現場では細かい点検作業や定期的なメンテナンスが確実に実施されており、その一つ一つが安全な航行に繋がっていることを実感しました。海上交通センターでは、こうした現場での努力や正確な情報提供があるからこそ、全国の船舶の動きを的確に把握し、安全な航行を支えることができていたのだと理解できました。今回の実習を通して、普段あまり意識していなかった灯浮標やA I Sの大切さを学ぶことができました。

これからの学習や実習の中でも今回学んだことを活かし、より正確な情報提供ができるよう心がけ、安全に船舶が航行できるよう努めていきたいと思っています。

く管制課程第7期

星野 南 学生く



今回の実習を通して、海上保安業務における機器の重要性を身をもって実感しました。特に空山A I S陸上局では、陸上局の設備、役割を学び、正確な情報収集と安全運航の基

盤となっていることを学びました。山頂という厳しい環境下でも、遠隔操作や自動制御により確実に機能している点に技術の進歩と現場の努力を感じました。また、舞鶴浮標置場では、灯浮標の整備や点検が想像以上に危険で労力を要する作業であることを知りました。実際にブイの揺れ方や沈み具合・鉄鎖の点検方法を聞き、航路標識を維持することの大変さと責任の重さに強く感銘を受けました。私が最も印象に残っていることは「船舶の道しるべである灯浮標も、船舶交通の障害物となりえる。」という言葉です。灯浮標の消灯事故や鉄鎖の摩耗破断による灯浮標の漂流など、様々な事態が想定されます。これらの事態を予防するための整備点検であり、また、管制官は船舶がブイにも衝突しないよう動静監視・情報提供を行うべきです。今回の実習により、海上保安庁の業務の中でも、自分が知らない業務が多くあることを痛感しました。特に、保守整備に携わる人々は縁の下の力持ちであると感じることができました。管制官が使うレーダー画面、通信機器であっても、点検や管理が行われます。現場では、このような繋がりを意識して業務に取り組みます。

海の道しるべ「灯台」特別展示開催

第四管区海上保安本部交通部企画課



第四管区海上保安本部では、灯台記念日関連イベントとして11月1日から3日の間、博物館明治村において、明治初期から海を照らした「灯台」に関する特別展示をメインとしたイベントを開催し、3日間、天候にも恵まれ多くの方に来場していただきました。

博物館明治村は、明治時代を中心とした建築物を保存展示する野外博物館として、愛知県犬山市郊外、入鹿池に面した美しい風景の丘陵地に位置し、東京ドーム約21個分の広大な敷地にはフランス人技師ヴェルニにより設計された品川燈台や英国人技師R・H・ブ



写真1 展示会場



写真2 灯台輪投げ及びパネル展示



写真3 大盛況のイベントブース

ランTONの指導により建設された菅島燈台附属官舎のほか、小那沙美島燈台（現・安芸絵ノ島燈台）、菅島燈台日時計、霧信号用蒸気機関、台場鼻潮流信号機が保存展示されています。

菅島燈台附属官舎では『明治の燈台』と題して、「お雇い外国人」技師ヴェルニーやランTONなどの事跡を紹介するほか、三島由紀夫の小説「潮騒」の舞台となった伊勢湾に浮かぶ神島の神島燈台（三重県鳥羽市）で使われていた第四等レンズ（フレネルレンズ）等が動態展示されており、平成16年から灯台記念日のイベントにご協力をいただいております。

大盛況となったイベントについて紹介いたします。

○航路標識業務周知啓発

灯台パネル及び第二等レンズ（フレネルレンズ）実寸大タペストリー展示、灯台輪投げ、当庁OBである藤島 充良氏新作の灯台パーパークラフト配布を行いました。

○フォトスタンプラリー

明治村内に展示されている航路標識関連施設5か所のうち3か所の写真を撮影し、第四管区海上保安本部公式Xをフォロー又はイベントの様子をSNS

で投稿するとガチャガチャの抽選で限定グッズを景品として差し上げる企画を行いました。

博物館明治村の「村内を広く周遊して欲しい」、当庁の「ぜひ展示会場に足を運んで欲しい」という両方の期待を叶えるWin-Winの取り組みとなりました。

なお、第四管区海上保安本部公式Xのフォローを達成条件としたところ、イベント期間内の新規フォローワーカー数は約200人を数え、イベント前より約2割の増加となりました。

○学生募集活動等

学生募集及び各種リーフレット、うみまる・うーみん（着ぐるみ）、デジタルサイネージ放映及びパネル展示を行いました。

○海洋少年団による手旗信号実演

札幌電話交換局及び菅島燈台附属官舎前の広場にてうみまる・うーみんと共に演じて手旗信号の実演を行いました。

○明治偉人隊とコラボしたイベントの周知活動（初）

今年度、初の取り組みとして明治村公式おもてなし隊である「明治偉人隊」とコラボした企画を行いました。

イベントの事前周知用YouTube動画の撮影やX投稿、当日も展示会場を訪れ、灯台記念日やイベントの周知、海上保安庁のPR活動などにご協力いただき、ファンの一部の方も一緒に展示を楽しんでいただきました。

○品川燈台内部公開（明治村担当者）

旧品川燈台の内部をイベント期間中限定で公開しました。

灯台記念日関連行事として、博物館明治村において、灯台に関するイベントを実施して、広く一般市民に対して航路標識業務を始めとした海上保安業務の周知啓発を図り、学生募集活動にも繋がったと思います。

イベント期間中の博物館明治村



写真4 手旗信号実演



写真5 明治偉人隊とコラボした周知活動



写真6 灯台記念日の締めくくりにかかった二重の虹

への入村者数は9,517人、特別展示には1,578人の方の来場があり、入村者の6人に1人が特別展示を訪れました。また、「フォートスタンプリー」は約320名の方が参加され、景品となる限定グッズを受け取り喜ばれていました。楽しむ来場者の顔を見て、7月から進めてきた準備が実を結んだように感じられ、非常に達成感のあるイベントとなりました。

「マリンピア日本海」で灯台記念日のイベントを開催

第九管区海上保安本部交通部企画課

11月1日の灯台記念日に先立ち、10月25日、翌26日の2日間で、日本海側では最大級の水族館「新潟市水族館 マリンピア日本海」において、毎年恒例となった記念イベントを開催し、次のように灯台の歴史や灯



マリンピア日本海正面入り口の様子



点灯体験をしている様子

器の展示の他、新潟港西区西突堤灯台100周年の紹介等を行い、2日間の合計で965人の方が訪れました。

新旧灯器による点灯体験

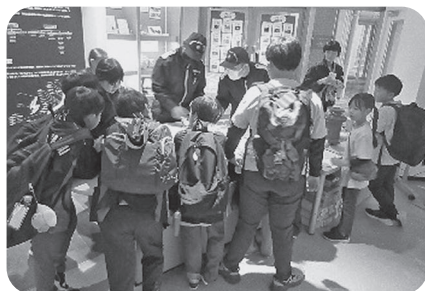
新潟県佐渡市の両津港北防波堤灯台で約20年前まで実際に使われていた5等フレネルレンズと新型LED灯器を並べ、各灯器の点灯体験を行いました。フレネルレンズの形に興味を示す方もいれば、点灯させた電球の光が、レンズを通して屈折することで生み出された平行な光線が、壁に映し出さ



新潟港西区西突堤 3 代目の写真展示



缶マグネットのデザイン (一部)



缶マグネットワークショップの様子



灯台パネル展示の様子

れる様子に感動する方もありました。また、新型LED灯器と操作用タブレットをBluetoothで接続して、光り方や明るさを変えることができる最先端技術に興味を示す方もおり、体験者は灯台で使用されている機械に感心していました。

新潟港西区西突堤灯台100周年

令和7年6月で100周年を迎えた新潟港西区西突堤灯台のはじまりから現在までの歴史を記した年表と写真を展示し、100周年をアピールしました。身近な灯台が、そんなに古くからあることに驚かれる方も

いました。

灯台記念日周知グッズ

今年は燈光会の周知広報活動費にて缶マグネット制作器を購入し、当管区の灯台をイメージした缶マグネットを制作するワークショップを開催しました。来場した子供たちは約20種類の灯台イラストから好みのデザインを選び、自身の手で記念品を作成しました。様々な形の灯台があることに驚いたり、遠方からの来場者が地元の灯台のイラストに喜んだり、デザイン選んで渋滞になるほどの大盛況でした。

— 明治の灯台の話 (77) —

酒田灯台 (前編)

灯台 研究 生

山形県初の洋式灯台

前回の姫埼灯台（新潟県）が出来た明治28（1895）年に隣の山形県にも初の洋式灯台が建設されました。最上川河口の南岸に設置された酒田灯台です。明治28年の通信省告示第百四十六号により次のとおり告示されています。



最初の頃の酒田灯台
（作製年不詳絵葉書より）

山形県下羽前國西田川郡袖浦村大字宮野浦へ建設シタル燈臺ニ於テ 不動白色ノ燈明無等ヲ設ケ 明治二十年十月二十日以後 毎夜點火ス 但該燈臺ハ酒田燈臺ト称ス

明治二十八年九月二十六日

逋信大臣子爵渡邊國武

- 一 該燈臺ノ位置ハ 水路部出版第百四十四號ノ海圖ニ依レバ 北緯約三十八度五十七分三十秒ニシテ 東經約百三十九度五十分ニ當ル
- 一 該燈臺ハ 木造六角形ニシテ 白色ニ塗り 基礎ヨリ燈火マデ高サ三丈ナリ
- 一 該燈火ハ 眞方位北二十度東ヨリ北七十一度西マデ二百六十九度間ヲ照輝ス
- 一 右方位ハ海上ヨリ燈臺ニ向テ測定ス
- 一 該燈火ハ 水面ヨリ高サ五丈四尺ニシテ 其光達距離ハ晴天ノ夜六海里トス

酒田灯台が設置された対岸には、最上川の河口港であつた当時の酒田港がありました。北前船の往来で繁栄した酒田港も、明治以降大型汽船の時代になると、最上川河口の堆積する土砂により、入港船は年々減り

続け、酒田の街は衰退の一途をたどっていたことが酒田市史下巻（昭和33年発行）に次のとおり見られます。追い打ちをかけるように、灯台設置の前年の庄内大地震により、酒田の街は甚大な被害を受けていた記録が記されています。

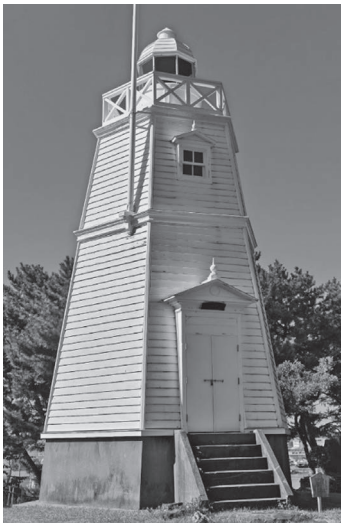
明治二十七年（一八九四）十月二十二日、庄内地方は東北みぞうと称される大地震にみまわれた。酒田は家屋が密集しているうえに、折から夕食の準備にとりかかった時（午後五時三十七分初震）であったため、大火災がともない被害が特に大きくなった。突然のごうと雷のような音がしたかと思うと、市内の各所で



庄内大地震の石版画

土が三・四尺もより上がり、家屋が倒れ、地が裂け、道路が割れ、ほとんど間髪を入れずに火を噴き出したので、市民はまさに阿鼻地獄に投げ出されたような惨状であった。全焼千七百四十七戸、うち家屋千二百九十戸、社寺二十二棟、土蔵三百二十八棟、板蔵類百七棟。全壊二百四十戸、半壊九十三戸、破壊三百二十九戸。死亡百六十二人、負傷二百二十三人という大惨事であった。

年々衰退していく酒田の街が大震災で荒廃し、日清戦争の最中で国からの復興援助が計画されず、先行きの見通しが全く立たない中、街の対岸の砂州上に、六角形の木造の酒田灯台が、山形県では初の洋式灯台と



日和山公園の酒田灯台
（2025年9月撮影）

して誕生していたのです。

酒田灯台の設置理由

酒田灯台の設置理由を記した当時の記録書は、今回の調査では確認出来ませんでした。震災復興のための灯台とも考えられますが、日本の命運をかけ大陸進出の戦争に国力を注いでいた明治政府が、この震災復興を計画せず、堆積土砂で船舶が入港出来ない衰退し続ける港のために、果たして灯台の設置を承認したか疑問です。当時の灯台設置は、海外へのレンズの手配や灯台建設費用などが前年度までに政府の承認を経て進められています。酒田灯台の設置が計画的なものであれば、庄内大地震の発生は前年の10月末であることから、地震の発生とは関係ないことになります。ちょうど地震発生の前年、山形県から明治政府へ鉄道敷設の要望書が出されており、その中で興味深い記述が、酒田市史（改訂版下巻・平成7年発行）にも次のとおり見られます。

羽越線敷設について、明治二十六年（一八九三）十二月には県会議長丸山督名をもってその県議案を内務大臣井上馨に提出している。羽越線の卓越した敷設効

果としての経済的理由としては、裏日本の豊富な物資を北越に移出し湖東線を経由して関西に送り、逆に生産の事業を勧誘して国家の富殖を助ける利便をあげ、さらに酒田港は、シベリア鉄道が開通すれば、ウラジオストックとの貿易で新潟港について重要港となることなどを強調した。また、軍事上の重要性として、日本海岸警備を司る軍備は、新発田に分営が設置されているが、その機能を十分に發揮させるには、羽越線の優先的施策以外にはないとした。



羽越線全線図

すなわち、仙台鎮台と新発田分営の連絡は岩越線によれば八五里であるが、羽越線では五九里半であるから、二五里半短縮されるわけで、一旦緩急の場合により有効適切に活用されることと、さらに米沢より新発

田まで二五里半は、本営より新津まで四八里の距離に比して、二二里半も短縮されるので、仮に一里当りの工費二〇万円とすれば、四〇〇万円以上の国費が節約になる計算で、羽越線の施工方を要望した。

山形県から明治政府に出された羽越線の設置要望書に、シベリア鉄道開通後に酒田港が新潟港に次いで重要港になるとされ、軍事上の重要性も強調されています。要望書が出された時期だけを見れば、酒田灯台設置の2年前であることから、酒田灯台設置理由の一回とも見なされます。日本海側の交易促進に係る鉄道の敷設に合わせた灯台の設置事例は、明治14年の福井県の立石岬灯台に明確な記録が残されています。しかし、羽越線の設置工事は明治期には開始されず、酒田駅の開業は、酒田灯台設置から20年後の大正3年（1914年）です。また、シベリア鉄道は酒田灯台設置後の1897年（明治30年）にイルクーツク―ハバロフスク間を除く区間が完成しますが、全線の開通は1916年（大正5年）のため、羽越線の敷設要望が酒田灯台の設置理由とは言い切れません。

酒田灯台が出来た明治28年の灯台（航路標識）は、1月に紀伊水道の紀伊日御埼灯台、2月に瀬戸内海の

波節岩灯標と玄界灘の大文字岩灯標、11月に鳥取県の境港灯台、12月に姫埼灯台と瀬戸内海の男木島灯台など、これらの灯台は活性化した内航海運を更に促進するための灯台でした。衰退し大地震で荒廃した酒田港に設置された酒田灯台とは、設置の背景が全く異なるもので、酒田灯台の設置理由については判然としません。

酒田灯台の工事記録

灯台の設置工事に関する記録は、わずかですが残されています。明治28年度の通信省の事業報告「通信省第十年報」の航路標識工事記録には、明治28年5月19日に工事を開始し、震災からちょうど一年後の同年10月20日に竣工、同夜より灯台が点灯開始したと見られます。この工事開始直前の明治28年5月1日付の通信公報第一二九二号には、姫埼灯台の建設工事に従事した児玉慶蔵技手の出張辞令と並行して、同じ日付で次の出張辞令が見られます。

山形県下へ出張ヲ命ス（明治28年4月26日）

航路標識管理所技手 梶山由良

航路標識看守 大庭 宥也

山形県下へ出張中臨時現金前渡ヲ受クル官吏及臨時物品會計ヲ命ス（同日）

航路標識看守 大庭 宥也

山形県下へ出張を命じられた航路標識管理所技手梶山由良が、酒田灯台の建設工事に携わっています。その事実は意外にも、姫埼灯台の建設記録が記された新潟新聞に残されていました。明治28年7月2日と同4日付けの紙面には次の記事が掲載されています。

○横濱航路標識管理所技手の来港 同技手梶山由良氏は 酒田燈台建築用材買入れ及工人傭入れの爲め 去二十九日来港 吉勘に滞在し居れり



梶山由良技手 明治30年8月撮影
航路標識管理所職員集合写真より

○梶山技手 横濱航路標識管理所技手梶山由良氏は山形県酒田港へ燈臺建設に就て 大工職雇入及び物品買入等の爲め 當て来港中なりしが 昨雇入の大工職十名を引〇ひ酒田へ向け出發せり

通信公報の出張辞令では山形県への出張となっていますが、先ずは新潟に向かい、同地で灯台建設工事の手配を行っていたようです。考えられるのは、庄内大震災により、酒田周辺では工事の手配が困難だったことです。酒田市史には、震災後の状況が次のとおり見られます。

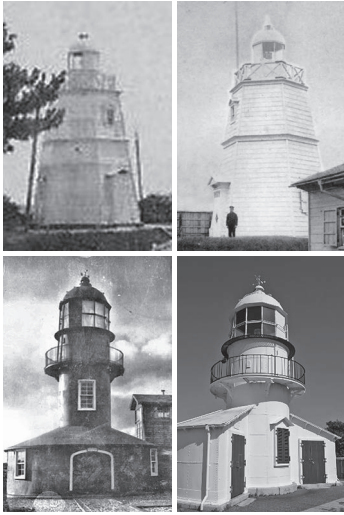
震災後数日にして物資が払底し、これに乗じて暴利をむさぼろうとするものがあらわれ、物価高騰のきさしが見えた。そのため県から告示を出し、きびしく木材その他の急用品について取り締まっている。

酒田市史には庄内震災後の物価表も記され、大工と左官一人の手間賃が二十五銭から三十五、四十銭、日雇いの賃金も二十銭から二十五銭に震災後は大きく高騰していた記録も見られます。県は酒田の大工や左官を、荒廃した街の復興を優先し専従させていたことも

十分に考えられます。酒田灯台建設を命じられた梶山技手は、職工も資材も入手困難な酒田を避け、隣接の新潟から人も物も調達していたようです。

航路標識管理所技手 梶山由良（又は由郎）

梶山技手の記録も、わずかですが確認できています。航路標識管理所の職員録には、梶山技手が明治28～38年までの10年間に在籍した記録が見られます。この間に酒田灯台のほか明治34年7月に点灯の鉄造の関埼灯台（大分県）の設置工事にも携わっています。両灯台には実は共通点があります。双方とも、形状がほぼ同型同寸の灯台が直近で造られていることです。酒田灯台は、明治28年11月に境港灯台（島根県）、関埼灯台は



上：酒田灯台（右）と境港灯台（左）
下：関埼灯台（右）と稚内灯台（下）

同33年12月に稚内灯台（北海道）が建設されています。梶山技手は、多くの明治期灯台に見られる特徴あるオリジナル灯台の担当技手ではなく、規格化された灯台を担当していた技手でしたが、その後は大きく飛躍します。

日露戦争最中の明治37年9月、当時航路標識管理所の筆頭技手であった山本哉三郎と共に朝鮮半島に派遣され、戦中韓国各地の灯台建設に携わり、戦後も韓国に留まり、韓国燈台局の発足時から後には朝鮮総督府の通信局航路標識担当の筆頭技手となり、大正11年までの長期間、韓国の灯台黎明期に尽力した日本人灯台技手でした。酒田灯台は、この梶山技手が最初に携わっていた記念すべき灯台だったので。

明治期の木造灯台

前述のとおり、明治期の灯台には同型の灯台が同じ時期に造られている事例が確認できます。以下の明治期木造灯台の一覧を見ても明らかです。明治期の灯台表（航路標識便覧表ほか）に記載された木造灯台、すなわち国が公式に灯台と認めた明治期の木造灯台は、短期間も含め46基でした（今回掲載した写真は確認できた36基のみ）。規格化された同型同寸の木造灯台は、

明治期の木造灯台

No.	灯台名称	所在地	点灯開始 (明治)	起 工 (明治)	竣 工 (明治)	形 状	地上～灯火 1丈=3.03m	等 級
1	石廊崎	静岡県	04.08.21	04.06.04	04.09.03	八角	2丈 6.1m	六等不動
2	和田岬	兵庫県	05.08.29	03.09.19	04.04.27	八角	4丈6尺 13.9m	四等不動
3	天保山	大阪府	//	03.11.15	04.05.15	四角	3丈 9.1m	四等不動
4	安乗崎	三重県	06.04.01	04.09.19	06.04.02	八角	3丈6尺 10.9m	四等回転
5	白洲	福岡県	06.09.01	05.02.27	06.09.--	四角	4丈2尺 12.7m	五等不動
6	潮岬	和歌山県	06.09.15	02.03.--	03.09.--	八角	6丈3尺 19.1m	一等不動
7	新潟	新潟県	10.02.15	-	-	六角	4丈4尺 13.3m	無等不動
8	納沙布	北海道	10.05.15	-	-	六角	3丈1尺 9.4m	五等不動
9	島原	長崎県	10.09.01	-	-	六角	2丈3尺 7.0m	無等不動
10	堺	大阪府	10.09.15	-	-	六角	3丈2尺5寸 9.8m	五等不動
11	伏木	富山県	10.10.10	-	-	六角	3丈3尺 10.0m	五等不動
12	鷹島	佐賀県	14.12.01	-	-	四角	1丈5尺 4.5m	六等不動
13	龍頭崎	高知県	16.06.03	-	-	六角	3丈1尺 9.4m	五等不動
14	日和山	北海道	16.10.15	16.05.10	16.10.15	六角	2丈5尺 7.6m	四等不動
15	博多	福岡県	16.12.01	-	16.09.01	六角	3丈6尺5寸 11.1m	五等不動
16	甲浦	高知県	17.12.05	-	-	四角	1丈5尺5寸 4.7m	無等不動
17	三津濱	愛媛県	19.06.15	19.05.08	19.06.15	四角	1丈5尺 4.5m	無等不動
18	四日市	三重県	19.08.01	19.05.10	19.08.01	四角	3丈 9.1m	六等不動
19	大山	静岡県	21.08.20	-	21.07.19	六角	1丈7尺5寸 5.3m	六等不動
20	福山	北海道	22.09.01	22.04.--	22.08.--	四角	1丈3尺5寸 4.1m	無等不動
21	鷗島	北海道	22.09.15	22.--	-	//	// //	//
22	三角	熊本県	23.03.01	-	-	四角	1丈4尺 4.2m	無等不動
23	花咲	北海道	23.11.01	22.--	23.11.01	四角	1丈2尺5寸 3.8m	無等不動

● 除いたもの

1. 混成造の灯台
 - ・葛登支岬灯台(木造・鉄造_明治18年)
2. 灯船、灯竿(灯柱)、導灯
 - ・本牧灯船(明治2年)、函館灯船(明治4年)
 - ・弁天島灯竿(明治5年)ほか
 - ・下関高灯(明治34年)、名古屋港高灯(明治40年)

● 含めたもの

1. 千島列島で日本人が建設した灯台
 - ・計羅武威岬灯台(千島 明治25年)
2. 短期間で改築または廃止灯台
 - ・島原灯台(2年7か月、明13.4改築)
 - ・大山灯台(7年4か月、明28.12廃止)



1_石廊崎 04.08.21 6.1m



2_和田岬 05.08.29 13.9m



3_天保山 05.08.29 9.1m



4_安乗崎 06.04.01 10.9m



5_白洲 06.09.01 12.7m



6_潮岬 06.09.15 19.1m



7_新潟 10.02.15 13.3m



8_納沙布 10.05.15 9.4m



10_堺 10.09.15 9.8m



11_伏木 10.10.10 10.0m



12_鹿島 14.12.01 4.5m



14_日和山 16.10.15 7.6m



15_博多 16.12.01 11.1m



17_三津濱 19.06.15 4.5m



18_四日市 19.08.01 9.1m



19_大山 21.08.20 5.3m



20_福山 22.09.01 4.1m



22_三角 23.03.01 4.2m



23_花咲 23.03.01 3.8m

明治期の木造灯台

No.	灯台名称	所在地	点灯開始 (明治)	起 工 (明治)	竣 工 (明治)	形 状	地上～灯火	等 級
							1丈=3.03m	
24	厚岸	北海道	23.11.25	—	—	六角	1丈8尺5寸 5.6m	五等不動
25	弁慶崎	北海道	23.12.01	—	—	四角	1丈6尺 4.8m	無等不動
26	増毛	北海道	23.12.25	—	—	〃	〃 〃	〃
27	釧路崎	北海道	24.09.01	23.10.--	24.06.30	八角	2丈5尺 7.6m	六等回転
28	室蘭	北海道	24.11.01	23.11.--	24.06.30	六角	1丈6尺 4.8m	無等不動
29	幌泉	北海道	〃	〃	24.03.--	四角	1丈6尺 4.8m	無等不動
30	浦河	北海道	〃	〃	〃	〃	〃 〃	〃
31	石狩	北海道	25.01.01	23.09.--	23.11.--	六角	4丈 12.1m	無等不動
32	計羅武威岬	千島	25.05.15	24.08.--	24.11.--	八角	4丈 12.1m	五等回転
33	壇ノ浦	山口県	26.04.01	25.11.20	26.03.31	六角	4丈4尺 13.3m	無等不動
34	大立島	長崎県	27.08.28	27.08.19	28.01.29	四角	2丈2尺 6.7m	無等不動
35	白瀬	長崎県	〃	27.08.21	28.02.05	四角	1丈1尺5寸 3.5m	無等不動
36	三島	長崎県	〃	27.08.16	27.12.25	四角	1丈8尺 5.5m	六等不動
37	神崎	長崎県	27.09.05	27.08.18	27.12.20	四角	2丈2尺 6.7m	四等不動
38	古志岐島	長崎県	27.09.13	27.08.20	〃	四角	2丈2尺 6.7m	四等回転
39	船川	秋田県	27.10.25	—	27.10.25	四角	1丈3尺5寸 4.1m	無等不動
40	酒田	山形県	28.10.20	28.05.19	28.10.20	六角	3丈 9.1m	無等不動
41	境港	鳥取県	28.11.15	28.06.01	28.11.12	〃	〃 〃	〃
42	上金石	石川県	30.08.15	—	—	四角	1丈7尺 5.2m	無等不動
43	飾磨	兵庫県	32.01.01	—	—	四角	2丈3尺 7.0m	無等不動
44	梶取崎	和歌山県	32.11.15	—	—	四角	1丈5尺 4.5m	無等不動
45	福浦	石川県	38.03.18	—	—	四角	1丈6尺 4.8m	無等不動
46	五島白瀬	長崎県	38.04.25	37.12.--	38.04.--	四角	1丈5尺 4.5m	五等不動



24_厚岸 23.11.25 6.6m



25_弁慶崎 23.12.01 4.8m



26_増毛 23.12.25 4.8m



27_釧路崎 24.09.01 7.6m



28_室蘭 24.11.01 4.8m



30_浦河 24.11.01 4.8m



31_石狩 25.01.01 12.1m



32_計羅武威岬 25.05.15 12.1m



33_壇ノ浦 26.04.01 13.3m



38_古志岐島 27.09.13 6.7m



39_船川 27.10.25 4.1m



40_酒田 28.10.20 9.1m



41_境港 28.11.15 9.1m



42_上金石 30.08.15 5.2m



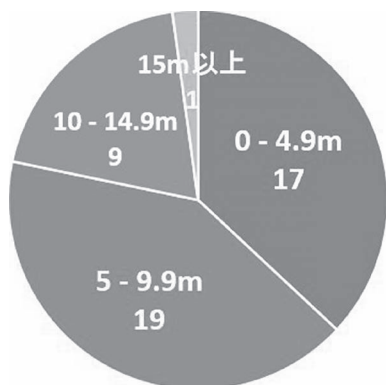
43_飾磨 32.01.01 7.0m



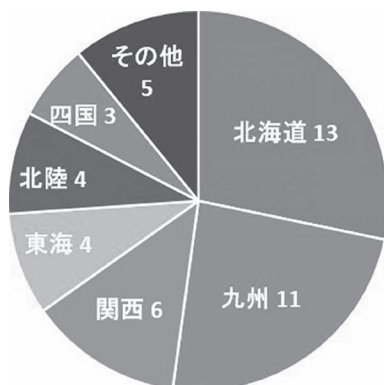
45_福浦 38.03.18 4.8m



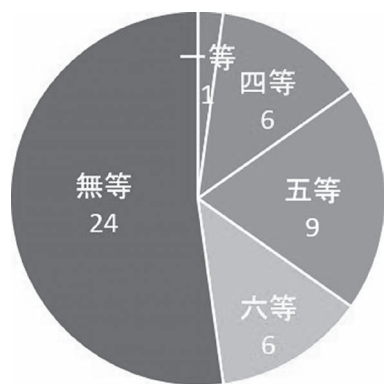
46_五島白瀬 38.04.25 4.5m



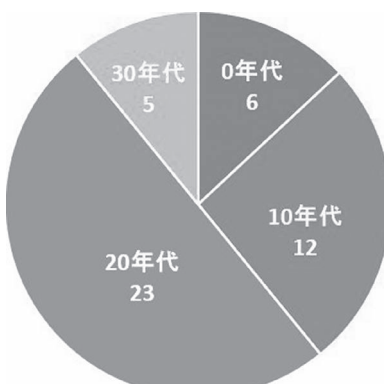
灯高



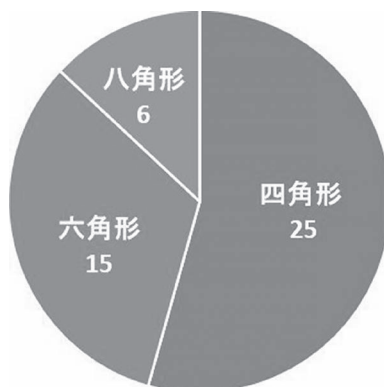
設置地域



等級



設置年代



形状

明治28年の酒田灯台と境港灯台のほか、同27年の神崎灯台と古志岐島灯台、同22年の福山灯台と鷗島灯台、同23年の弁慶崎灯台と増毛灯台と翌年の幌泉灯台と浦河灯台は等級までまったく同じでした。これらの形状ほか要目をグラフ化すると、明治期の木造灯台の興味深い特徴が見えてきました。

地域別では、北海道が最も多く、続く九州との2地域で半数以上を占めています。その他の5基の内訳は東北が2基、中国地方が2基、千島列島が1基となっています。意外にも関東地方と沖縄には木造灯台は建設されていませんでした。

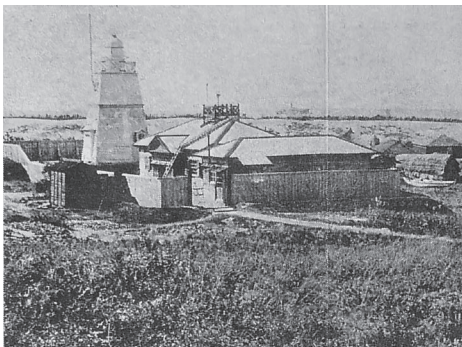
設置年代は、20年代が半数を占めています。その大半が北海道と九州の灯台です。コンクリートの灯台が主流となった40年代にはもう木造灯台は建設されていませんでした。最後は明治38年4月の長崎沖の孤島に建つ五島白瀬灯台です。日露戦争の激戦の渦中に建設された小規模の灯台でしたが、昭和初期まで変わらぬ姿で健在であったことが当時の写真から確認できます。

形状は四角形が半数以上、六角形、八角形と続きます。四角形の灯台は写真のとおり背の低いものが多く、六角形、八角形と多角形になるに従い、背も高くなっていく傾向です。それは風圧に対する強度と関係があるのは明らかです。八角形の灯台6基のうち4基がブラントン灯台であることも大きな特徴です。

地上から灯火までの灯高は、10メートル未満が8割近くを占め、木造灯台はほとんどが背の低い灯台であったことが分かります。その中で唯一最も高かった潮岬灯台の19・1メートルは別格です。

等級（レンズ・灯籠の大きさ）は無等が半数以上を占め、別格の潮岬灯台の一等を除くと、四等以下しかなく、木造灯台は光力も小規模であったことがグラフから明白です。

見ためは同じような木造灯台ですが、これらのグラフ、一覧、写真を通して、明治期の木造灯台の全体像がおぼろげながらも見えてきます。しかし、この46基以外にも、灯台表には未記載の県や市町村、または有志者が国の許可を受け設置運営していた木造灯台も存在していました。それらにも酒田灯台と同じように、他の灯台にはない特徴や歴史、物語が残されています。これらも含め、日本の木造灯台の全容を今後も見たいと思います。



大正中期の酒田灯台
(ジュニア版酒田灯台の歴史より)



普通会員

藤島

充良



1 はじめに

楽しい工作（その5）における灯台は、四日市港防波堤灯台及び三木埼灯台を取り上げることとしました。

四日市港防波堤灯台については、令和7年7月2日に四日市海上保安部次長の土田康二様から、同灯台が令和8年5月1日に100周年を迎えることから、ペーパークラフト作成依頼があり、旧四日市港防波堤灯台のクラフトを作成し、令和7年10月下旬に同保安部に提供しています。

また、三木埼灯台は、令和10年11月28日に100周年を迎えること及び現在の尾鷲海上保安部交通課の職員3名と同勤した経緯があり、灯台記念日等におけるイベントに役立てていただきたく、建設当時の三木埼灯台をペーパークラフトにて再現し、令和7年10月下旬に同保安部に提供したものです。

2 四日市港防波堤灯台について

私は、四日市海上保安部には平成28年度から平成29年度及び令和4年度の2回勤務させていただきました。

四日市港の特色は、石油化学コンビナート等を擁するエネルギー資源の重要な供給基地で、大手製油会社2社や電力会社の発電所などが臨海地域に集中する工業地帯となっています。

旧四日市港防波堤灯台は、石原地区防波堤先端に大正15年5月1日に三重県によって建設され、昭和2年9月2日に通信省燈台局に移管されました。規模としては、基礎から灯火まで12・8メートル、白色六角形コンクリート造で光達距離約23キロメートルで、当初レンズは六等でしたが、後に五等に変更され、昭和42年11月30日に現在の一般的な姿の四日市港防波堤灯台に建て替えられ、灯ろう及びレンズは再利用されまし

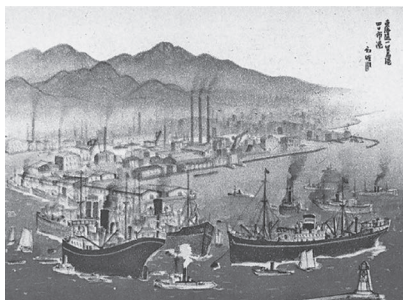
た。

図―1は、昭和12年に四日市港が外国貿易1億円突破を記念して描かれたもので、右上に「東海随一貿易港四日市港」と記され、右下には旧四日市港防波堤灯台が描かれており、当時の姿を伺うことができます。

図―2は昭和12年頃の海図で、埋め立てが進む四日市港の変遷を知ることができます、色が変わっている部分は、海図が水路図誌によって補正された部分であり、右下に石原地区の埋め立てと四日市港防波堤が出現した際の状況が読み取れます。

旧四日市港防波堤灯台に

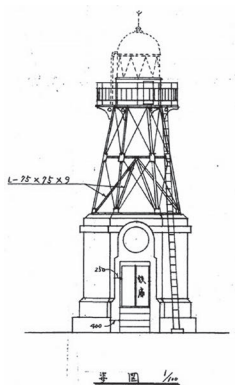
関する資料は、建て替え時における撤去時の図面（図



図―1



図―2



図―3



写真―1

載いただきましたので、ここからダウンロードできるほか、「楽しい工作」シリーズの以下のホームページに貼り付けておきます。

<https://furukujimdo.free.com>

3 三木埼灯台について

私は、平成26年度から平成27年度に尾鷲海上保安部に勤務させていただきました。

尾鷲市は、当時は人口約1万9千人（現在約1万4千人）で、こじんまりとした港町でしたので、町中で

―3―）が残されており、当時の姿を知ることができたので、これを元にペーパークラフトにて再現することとしました。

（写真―1）

型紙データについては、四日市海上保安部のホームページに新たに掲

関係者と会う機会も多く、顔の良く見える環境でした。他県ナンバーの車を見て「海保の人ですか」と聞かれるくらい、すぐに身元がバレてしまう面もありましたが、地域の方には身近に接していただきました。

私にとっては初めての海上保安部勤務でしたので、保安部長の配慮により、巡視船の射撃訓練、浜開き式、消防の出初式などに出席させていただきました、貴重な体験をさせていただきました。

同保安部管内における有名な灯台は、三木埼灯台で、大正7年から昭和20年4月まで活躍された日本屈指の灯台技術者の三浦忍氏による設計です。



写真－2

三浦氏は、旧大阪港北突堤灯台に見られるように緻密で洗練された美しい姿の灯台を設計された方で、先の大戦で海軍技師として南洋での灯台等建設に従事し、昭和20年4月にシンガポールから阿波丸にて帰国する際、誤爆攻撃を受け、船と

もに運命を共にされました。

私は三重県出身であることから、県内に三浦氏が設計した灯台が存在し、現役で利用されていることを本当にうれしく思っています。

三木埼灯台の特徴は、附属舎の事務室が2階に設けられ、吏員退息所から2階の事務所に平面で移動できるように山の斜面を垂直に切り出して建てられています。(写真－2)



写真－3

現在の同灯台は、建設当時とは少し形状が異なり、附属舎屋上には、昭和43年に集約管理工事を行った際にパラペット状の壁が設置されています。この壁の設置時の工事写真では、壁上面にガラス瓶の破片が埋め込まれていたことから、附属舎入口の底から人が登らないように高いパラペット状の壁が設置されたものと考えられます。

今回の三木埼灯台のペーパークラフト作成においては、三浦氏戦没80年を偲び、建設当時の姿(写真－3)

に戻して再現してみることとしました。(写真―4)

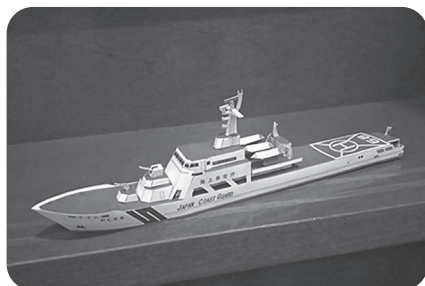
4 「巡視船すずか」のペーパークラフト

今回作成した巡視船艇のペーパークラフトは、尾鷲海上保安部所属の巡視船すずかです。

前述のように私は初めての保安部勤務が尾鷲でしたが、当時ペーパークラフトは、まだ作っていませんでした。同保安部管内巡視船艇のクラフトを作成していなかったことが気になっており、令和7年10月上旬に巡視船すずか(写真―5)及び巡視艇みえかぜのペーパークラフトを作り、同保安部に提供させていただきました。



写真―4



写真―5

にライトメールに「海難ゼロへの願い」「海の安全情報確認」の安全啓発メッセージを入れさせていただきました。

早速、10月17日(日)に開催された三重県紀宝町の「紀宝みなとフェスティバル」における海保ブースにて同クラフトを展示いただき、型紙の配布も行われ、広報活動等に役立てていただきました。

5 「灯台見回り船あやばね」のペーパークラフト

令和7年7月上旬に灯台見回り船あやばねのペーパークラフトを作成し、名古屋海上保安部に提供していますので、併せて紹介させていただきます。

現在の灯台見回り船あやばね(総トン数49トン、長さ24メートル)は、2代目で以前の所属は石垣海上保安部で平成23年4月に名古屋海上保安部に配属替され、伊勢湾の航路標識を広域管理する業務に従事しています。

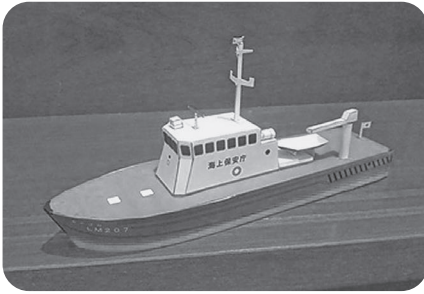
ネット情報によれば、「あやばね」とは、八重山の座開きに舞われる「鷹の鳥」の冒頭「あやばにはらまらしょうり」の「あやばに」から

命名された綾羽（あやばね「カンムリワシの幼鳥」）とのことです。初代あやばね（総トン数144トン）は、沖縄復帰の昭和47年に竣工し、平成12年に解役の後、民間に払い下げられ、中部国際空港工事現場の監視船として稼働しており、その後、韓国にて平成22年1月に解体されました。

ちなみに「綾羽」は、滋賀県民なら多分「アヤハ」と読みます。令和7年夏の甲子園大会で滋賀県代表として「私立綾羽高等学校」が初出場しており、2回戦で横浜高校に敗れましたが、スタンドの応援では、アヤハデリオホームセンターで流れる曲が演奏されてい



写真—6（左から1番目）



写真—7

ました。

私は、平成19年の夏ごろA I S（船舶自動識別装置）陸上局の配置計画調査で、西表島に行った帰りに灯台見回り船あやばねに迎えに来ていただき、平成28年度から平成30年度及び令和3年度において四日市海上保安部、名古屋港海上交通センター、鳥羽海上保安部にて大変お世話になった船です。（写真—6）

灯台見回り船あやばねは、全国的にも残り少なかった灯台業務用船で、間もなく耐用年数を迎えることから、長年の活躍に感謝の気持ちを込め、ペーパークラフトにて再現することとしました。（写真—7）

当該クラフトは、パーツ数が少なく、作成が簡単であることから短時間で完成しますので、ぜひ製作に挑戦してみてください。

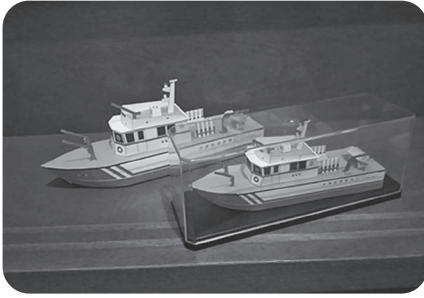
6 「消防艇おおつ」のペーパークラフト

鳥羽市営定期船及び鳥羽商船所所属練習船鳥羽丸を作成した際に、関係者に変喜んでいた経緯から、私の住所のある滋賀県に関するペーパークラフトを作成してみようと考え、ネット検索していたところ、大津市ホームページにおいて、救急車及び救助工作車等

のペーパークラフト型紙データが掲載されているのを見つけました。さらに琵琶湖の船で検索していたところ、大津市消防局の「消防艇おおつ」（ことかぜ）の存在を知りました。

船体がカラフルで、ペーパークラフト化しやすい船型構造であり、同船の紹介資料に図面が添付されていたので、CAD（設計支援ソフト）化しやすく、型紙及び試作品を3日で作成することができました。（写真―8）

令和7年10月3日に縮尺1／70と1／100のクラフトが完成したので、大津市消防局消防総務課の吉田



写真―8



写真―9

様に事前連絡して持参したところ、消防総務課及び予防課の皆さんが起立されて迎えていただいたほか、消防局長室にご案内いただき、消防局長の弓坂則行様に直接お渡しさせていただきました。（写真―9）

当該ペーパークラフトに関しては、大変喜んでいただけ、早速、同局の入口及び中消防署の受付に飾っていただき、令和7年10月10日に大津市ホームページに型紙データを掲載いただき、広く市民の方に利用できるように周知していただいたほか、インスタグラムにおいても広報していただきました。

7 おわりに

楽しい工作（その5）においては、8月下旬から10月の間にクラフト作品が5点完成したことから、これらを紹介すべく少し盛りだくさんになりましたが、「楽しい工作」シリーズのホームページに型紙データを貼り付けておきますので、これから新作クラフトにもぜひチャレンジしてみてください。

なお、楽しい工作（その4）で紹介した菅島燈台附属官舎のペーパークラフトは、第四管区海上保安本部交通部が博物館明治村にて行う11月の灯台記念イベントにおいて、海難防止メッセージ入りの型紙を数百

部、来場者に配布していただき、広報活動に活用していただきました。

さらに、令和8年1月8日から1月12日において、鳥羽市立図書館において「灯台と船のペーパークラフト展 in 鳥羽」が鳥羽海上保安部協賛にて開催され、楽しい工作シリーズで紹介させていただきました作品を展示させていただき、11日(日)には同部によるイベントが行われ、企画展を盛り上げていただきました。

同企画展にあたっては、副館長の清水弘光様に同館展示コーナーのスケジュールが立て込んでいるところ、長期間の展示を実施させていただき大変感謝しております。

また、一連の鳥羽市営定期船、鳥羽商船鳥羽丸クラフトの寄贈に関して、鳥羽海上保安部において関係機関と調整いただき、鳥羽市長及び鳥羽丸船長に贈呈していただいたこと大変感謝しています。特に鳥羽海上保安部交通課長の中田純一様におかれましては、海上交通業務とは所掌外になるにも関わらず、これらに対応していただき、本当に感謝しています。



訂正とお詫び

令和7年11月号(口絵 絵画コンテスト表記)に、誤りがございましたので、次のとおり訂正いたします。皆様に深くお詫び申し上げます。

訂正

区分	正	誤
小学生低学年の部 銅賞 川本わこさん 小学生低高学年の部 銅賞 池田 暁さん	埼玉県さいたま市立 鳥小 小学校 「思い出の犬吠埼」	愛知県半田市立 乙川 小学校 「思い出の吠埼灯台」

〓設置123年に感謝を込めて〓 鮎ヶ埼灯台を一般公開



鮎ヶ埼灯台は、三陸沖を航行する船の海のみちしるべとして1902年（明治35年）、本州最東端の地に設置され、今年で123年を迎える灯台です。地域の皆様方の海上保安業務に対するご理解とご協力に感謝を込めて、11月2日に「浄土ヶ浜ビジターセンター」のトレッキングツアーに合わせた灯台の一般公開を行い、灯台の歴史や仕組みについて理解を深めていただく絶好の機会となりました。当日はツアー参加者及び一



般の方々、計141名が姉吉漁港などから「みちのく潮風トレイル」の起伏の激しいコース約4キロメートルを徒歩で1時間以上かけ灯台にやって来て、普段は登れない灯台の踊り場から青い海と空と紅葉美しい鮎山など三陸海岸の絶景を楽しみました。また、灯台登頂者には「鮎ヶ埼灯台のしおり」



本州最東端の地 鮎ヶ埼灯台

「オリジナル缶バッジ」、登頂証明と連番付のがきサイズの「鮎ヶ埼灯台カード」、「のぼれる灯台16基」や「灯台のペーパークラフト」をプレゼント、さらに、抽選で、（公社）燈光会のご支援により作成した本革製オリジナルキーホルダーをプレゼントし、海上保安庁と釜石海上保安部の理解促進を図る



見学者で賑わう灯台



本革製オリジナルキーホルダー
(公社) 燈光会のご支援

とどろき 海上保安庁
鯉ヶ崎灯台
8659E/1647

【要 所】 いわてひまわりこし 新島あまももろとどろき
【座 標】 39°32'44.1
【緯 度】 142°04'16.1
【経 度】 155
【光 度】 20.0海裏 約37km
【高 さ】 34m
【灯 火】 平均海面より上から58m
【点 灯】 明治35年3月20日

【ローメモ】
三陸沖を航行する船のみしるべとして、本州最東端の鯉ヶ崎の岬角に設置。令和元年11月12と13、灯台設置125周年及び岩手県と宮城県合併50周年に灯台が一般公開されました。

(公社) 燈光会・釜石海上保安部

鯉ヶ崎灯台カード



缶バッジデザイン

部) (釜石海上保安
ことができまし
た。釜石海上保
安部は、美しい
青い空と海と緑
の大地、自然豊
かなこの三陸で
地域の皆様との
絆を大切に、海
の安全・安心を
守ります。

五 管 区

国際VHFハンドセット修理 海の安全を守る縁の下で力持ち

海上交通センターの運用管制官は24時間、365日、国際VHF無線電話等で船舶の安全航行に欠かせない情報を提供して、船舶事故を未然に防ぎます。

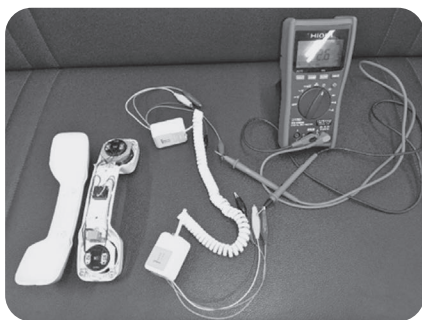
2023年3月の兵庫県淡路市から神戸市中央区への移転からおおよそ2年間で、運用管制官が情報提供に使用する国際VHF用ハンドセット(送受話器)4個がノイズ発生等により使用不能となりました。

調査したところ、ハンドセットのケーブルコードの接触不良や断線等が原因と判明しました。

第五管区海上保安本部交通部整備課に市販の電話器用ケーブルコードを購入してもらい、ハンドセットのケーブルコードの交換と調整や清掃を行い、4個



国際VHFで情報提供する運用管制官



ハンドセットとカールコードの点検



再使用可能となったハンドセット



市販の電話機用カールコード
(クロス結線)

のハンドセットが再使用可能となりました。
大阪湾海上交通センターは、レーダー、AIS、テレビカメラ、国際VHFやインターネット・ホームページ等の多様な媒体等で確実な情報提供を行い、船舶の事故防止に努めます。
更に、それら、多様の媒体の安定運用を陰で支える技術屋たちがいるのです。
(大阪湾海上交通センター)

堺信号所の敷地が 美しくなりました ～港内交通の安全のために～

堺信号所の敷地の雑木と雑草を除去しました。

堺信号所は阪神港堺泉北区(大阪府)の堺水路の船舶の出入りを管制する信号施設です。この地域は阪神工業地帯の一角で、臨海部には大規模な製油施設や発電所及び工場等が並びます。それらの施設の棧橋には、タンカーや貨物船等が離着陸するのですが、水路はそれらの船が行き交う十分な幅がありません。そのため、大阪湾海上交通センターの運用管制官が遠隔で、入航、出航や入出航禁止等の管制信号の切り替えを行うことで、航行の安全を確保しています。

約250平方メートルの敷地は、大阪港湾局からの借地で、おそらく数十年にわたり未手入れ状態で、雑木と雑草が繁茂し、隣接の工場等に影響を及



雑木と雑草が繁茂した敷地



見違えるように美しくなった敷地

ぼすおそれがありました。

令和7年9月18日、外注で、雑木の伐採と除草が完了、見違えるように美しくなりました。そして、切り株からの再発芽防止のために、職員が、すべての切り株にドリルで穿孔し、発芽防止液剤を注入しました。このような施設の維持管理も日々の海上交通安全の確保を支える大阪湾海上交通センターの大事な仕事の一つです。

さらに、本年度は、航行管制信号システムも白熱電球式から最新のLED（発光ダイオード）式に変更される予定です。

大阪湾海上交通センターは、私達の暮らしを支える輸送船が行き交う堺水路の安全に努めます。

（大阪湾海上交通センター）

『明石海峡大橋に沈む夕日が見られるチャンス到来！』

10月17日（金）～19日（日）、大阪湾海上交通センターマリンタクトKOBにて屋上を開放した夕暮れ参観が行われました。神戸市中央区のポートアイランドの南西端に位置する庁舎。屋上からは年に2回明石海峡大橋に沈む夕日が拝めます。庁舎の位置と庁舎から明石海峡大橋をのぞむ方位角、太陽の暦などから最適日を予測。

初の企画ながら腕自慢の写真家や地域の方々で賑わいました。「海上保安庁の施設であることを初めて知りました。」と話す近隣の住民もおられ、認知度向上にも貢献しました。

参加者から募った夕日の写真や各地で開催された灯台イベントの写真などをまとめ、第五管区海上保安本部×アカウントで紹介しています。

（大阪湾海上交通センター）

昭和三十一年一月二十五日
第三種郵便物認可
（隔月一回五日発行）

「燈光」

一月号 第七十一卷 第一号

